


本年も押し詰まってまいりました。訪問看護ステーションも早いもので3年目に入り、ご利用者様やご家族、関係者の方に感謝申し上げます。

この時期は、嘔吐下痢症やインフルエンザの流行が予測されます。冬号では、これらの感染症について特集をします。

今月の特集

感染予防の基本は手洗い・うがいです！

	インフルエンザ	嘔吐下痢症
原因	ウイルス ・咳・くしゃみ	ウイルス ・咳・くしゃみや嘔吐物・排泄物 ・汚染された食品の摂取
症状	感染してから1日～3日で、急な高熱や関節痛・筋肉痛・頭痛などの全身症状	感染してから1日～2日で突然の嘔吐・下痢・発熱
感染したら	安静・加湿(室内にタオルを干すなど)・水分補給 ※解熱剤は使用しないほうが良いものもあるため、医師に相談しましょう	嘔吐が落ち着いたら少量ずつ頻回の水分補給 ・消化の良い加熱した食事 ※水分が取れない時は病院受診しましょう
病院受診時はマスクを着用しましょう		
その他	簡易検査は発熱後12時間～48時間で検査可能 ※発熱後すぐに検査しても陰性になることがあります。陰性であっても、高熱が続く場合は再度受診してください。 	◎嘔吐物・排泄物の処理 ハイター液を40倍に薄めた物を消毒液として使用する ・直接接触らず、ビニール手袋・マスクをつけて処理 ・古布やティッシュ等で外側から内側に向けて静かにぬぐい取る ・汚物がついていた床とその周囲を消毒液で外から内に拭く ・手袋は裏返しに脱いで捨てる ・使用した布やティッシュ・手袋等はすぐにビニール袋に入れ、消毒液を湿らす程度に入れ処分 ・衣類・シーツ・スプーン・皿などは捨てられる物は処分し、捨てられない物は消毒液に1時間ほど浸け、洗浄し乾燥させる



日置、川薩地区訪問看護ステーション協議会の代表として、FM薩摩川内のラジオ出演をしてきました。10分間という短い時間でしたが、訪問看護の魅力を伝えてきました。 松園

※生活や介護でお困りのことがありましたらいつでもご相談ください

電話番号 0996-32-2020





Q: 男性が女性を介護されていますが、介護や日常生活で大変なことはありますか？

A: 私たちの年代の男性は外で働いていて“台所には入るな”という時代に生まれ育ってきた。いざ、家事をするとすると、料理はわからないし、味付けも好みにするのが難しかった。家内のすることを見てきたからどうにかしてやっているよ。買い物も、女性は細かいところまで気がつくが、男性はそうはいかない。周囲の理解や協力がないと難しいと思う。自分だけ大変と思わないで世間を見るようにしてる。

ご紹介

☆名前 西ノ海さん

☆介護歴 1年

☆利用者様 要介護1

☆利用者様の訪問看護内容

健康チェック

入浴介助

必要時点滴



Q: 病院と自宅での生活の違いはありますか？

A: 病院はいつも看護師や医者がいるから安心感はあるね。家では素人だから分からないし不安も大きい。でも家は気楽で自由に何でもできて、人が来て話をしたり、時間も気にしなくて良い。やっぱり家がよかよね。

Q: 他の援助者がいますか？

A: 時々、兄弟が来てくれる。



Q: 訪問看護を利用しているかがですか？

A: 利用するまで制度を知らなかったのが悔やまれる。訪問看護を利用して本当に素晴らしいと思った。病人を大切にしてくれる。具合の悪いときは特にそう思った。さくらのスタッフだけでなく訪問診療もしてもらえ、24時間体制ができて助かりました。連絡体制も整っていてケアマネやスタッフなどの縦横の関係も素晴らしい。

Q: 他にどのようなサービスがあったらいいと思いますか？要望など

A: 介護保険や訪問看護などの知識がなかった、もっと一般の人もこのような体制があることを知るべきだと思う。ピアールが足りなかったのかもしれないね。

介護認定については、明らかに状態のいい人、車を運転するような人に介護3がついていたりして、納得できない部分がある。在宅酸素をしていてあまり動けないのに介護1の認定だった。認定についてもっとわかりやすく十分に説明して欲しい。今、虐待の報道などがあるけど、今後もそのようなことがないようにお願いします。

Q: 家での生活(介護)を続けられるコツのようなものはありますか？

A: 調子の悪いときや台風の時、医師の往診や訪問看護や業者の対応が早いから助かります。昼でも夜でも対応してくれるから介護者のよりどころになっていると思う。そしてこうやって全く知らない人と知り合えた。ふれあいや出会いは大切なこと。いろいろな人に支えられていると思うよ。

訪問看護ステーションさくら スタッフより

お話を伺って、男性が介護するということは、介護の面だけでなく、家事全般を任せられ、いろいろな思いをしながら介護をされていることが分かりました。お話を伺った西ノ海さんの声が地域の皆様の共感につながったり、参考になれば幸いです。また、訪問看護ステーションとしてのPR不足を感じています。今後このような広報活動を通してたくさんの方々を知って頂けるよう努力し、在宅生活を支える一員として、利用者様やご家族に学びながら、力となれるように研鑽していきたいと思ひます。

西ノ海さんご協力ありがとうございました。